

漁海況月報

平成24年 1月 1日

No. 1

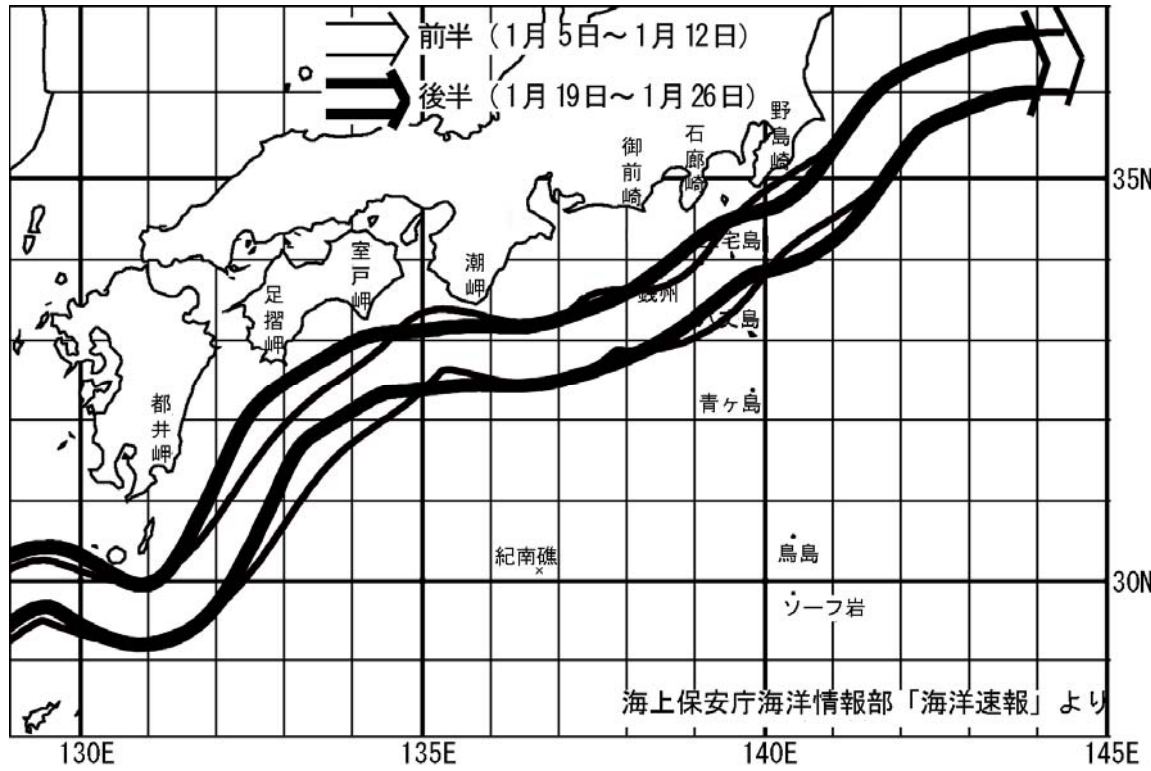
～1月31日

静岡県水産技術研究所

(電話 054-627-1815)

静岡県水産術研究所 伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	15.2	16.6	16.3	16.7	16.1	17.1	13.7
	-0.1	0.8	1.0	1.2	0.4	2.3	0.7
中旬	14.5	14.9	15.2	14.4	15.3	15.0	12.1
	-0.4	-0.4	0.5	-0.7	0.2	0.7	-0.2
下旬	13.8	15.2	15.8	16.3	15.8	16.6	12.2
	-0.6	0.2	1.5	1.6	1.2	2.6	0.3
月	14.5	15.5	15.7	15.8	15.7	16.2	12.7
	-0.4	0.1	0.9	0.7	0.7	1.9	0.3

【黒潮流路】

前半の黒潮は、都井岬～室戸岬で離岸、潮岬で接岸した後、熊野灘と遠州灘沖で小蛇行し、三宅島付近を通過して房総半島沖へ流去した。後半の黒潮は、室戸岬～室戸岬で前半よりも接岸、潮岬では離岸し、遠州灘沖の33°N付近を東進した後三宅島付近を通過して房総半島沖へ流去した。月後半に小蛇行が通過した時に、駿河湾内に強い暖水波及が見られた。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は相模湾では13～16°C、駿河湾の東部では15～16°C、西部では12～17°Cで推移した。下旬の駿河湾への暖水波及により、曇見で高め、焼津できわめて高めとなった。

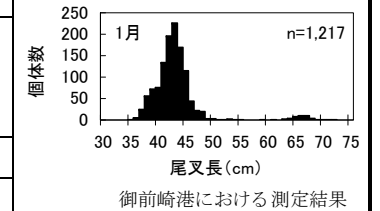
【竿釣近海カツオ】

県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海竿釣り船によるカツオの水揚量は24トンで前年同期の96%であった。魚価は363円/kgで、前年同期を下回った。沿岸竿釣り船は水揚げがなかった。

近海竿釣り船は、小笠原諸島周辺で小・極小(尾叉長43cmモード)、特大(尾叉長66cmモード)カツオを漁獲した。

竿釣(近海船+沿岸船)カツオ水揚量 (県内主要5港)

期間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
24年 1月上旬	0	0	—	—
中旬	0	0	—	—
下旬	24	3	8.0	363
24年 1月計	24	3	8.0	363
23年 1月計	25	3	8.3	444
22年 1月計	39	5	7.8	649



【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は842トンで、前年の同漁場の水揚量(521トン)の1.6倍となった。また、1か統あたりの水揚量は120.2トンで前年(74.4トン)及び平年(昭和57～平成23年の平均29.6トン)のそれぞれ1.6倍、4.1倍となった。

魚種別の漁獲量をみるとサバ類、カタクチイワシ、ブリの順に多かった。

サバ類は尾叉長で30～36cmのゴマサバを主体に尾叉長で32～39cmのマサバが混じる状態で漁獲され、ゴマサバについては1月6～13日にかけて全漁獲量の約3割に相当する140トン以上が川奈漁場を中心に集中的に漁獲された。カタクチイワシは被鱗体長で12～14cmの大きさのものが北部の漁場である伊豆山、古網漁場でほぼ全漁獲量が漁獲された。

ブリは主に尾叉長で73～76cm(体重6～8kg)の大きさのものが漁獲され、ゴマサバと同様に1月6～13日にかけて本月の漁獲量の約3割に相当する約30トンの集中的な漁獲が谷津漁場でみられた。

漁場別の漁獲量では、川奈漁場が310トン(サバ類、スルメイカ、マアジなど)、富戸漁場が127トン(サバ類、スルメイカ、マアジなど)、伊豆山漁場が109トン(サバ類、カタクチイワシ、ブリなど)の順に多かった。

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
サバ類	516.4	10.4	20.6	川奈、富戸、古網
カタクチイワシ	114.6	0.8	2.8	伊豆山、古網
ブリ	90.3	65.3	96.8	谷津、古網、伊豆山
スルメイカ	75.7	0.3	1.9	北川、谷津、古網
サンマ	15.1	1.2	0.9	北川、富戸、古網

[サバたもすくい・棒受網]

たもすくいは9日から、棒受網は13日から水揚げがあった。小川港には両漁業によってマサバ8トン(前年同月0トン)、ゴマサバ537トン(前年同月比318%)が水揚げされた。1隻あたり水揚量はマサバ0.5トン/隻(前年同月0.0トン)、ゴマサバ31.6トン/隻(前年同月比150%)であった。平均単価はマサバが270円/kg、ゴマサバは52円/kgで、前月(48円)、前年同月(48円)を上回った。

下旬前半まで両漁業とも三本、三宅でゴマサバ主体の操業であったが、28日夜にひょうたん瀬でたもすくいによるマサバの初漁があり(前年は2月7日夜)、今後は同漁場でマサバ主体の操業となる見込み。マサバは尾叉長34cmモードの3歳魚(2009年級群)主体、ゴマサバは30-31cmモードの3歳魚(2009年級群)、26-27cmモードの1歳魚(2011年級群)、2歳魚(2010年級群)主体であったが、三宅では35cm超の大型魚も混じった。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
24年1月上旬	0	17	1	1	0.0	17.5	53	53	三本
中旬	0	287	3	8	0.1	35.9	271	50	三本、三宅
下旬	8	232	4	8	1.0	29.0	270	54	ひょうたん瀬、三宅
24年1月計	8	537	8	17	0.5	31.6	270	52	—
23年1月	0	169	4	8	0.0	21.1	—	48	三本
22年1月	2	391	6	22	0.1	17.8	359	71	三本、ひょうたん瀬、三宅

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

*マサバは上旬24kg、中旬474kgの水揚量があったので、単価のみ記載した。

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が5kg、遠州灘が46kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は19kgと前年同期(567kg)の3%、平年同期(過去5か年平均:195kg)の10%と前年、平年を大幅に下回った。また、総水揚量は0.6トンで前年同期(187.8トン)の0.3%、平年同期(52.4トン)の1%と前年、平年を大幅に下回った。平均単価は976円/kgと平年同期(883円/kg)を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延続数	平均漁獲量 (kg/統)	平均単価 (円/kg)
新 居	0.1	1	6	23	793
舞 阪	0.4	1	6	68	632
福 田	-	-	-	-	-
御前崎	-	-	-	-	-
吉 田	0.0	1	1	25	1,148
静 岡	0.1	1	20	4	3,274
平成24年1月計	0.6		33	19	976
平成23年1月計	187.8		331	567	330
平成22年1月計	1.9		48	41	934

[まき網]

小川港ではマイワシが1.0トンの水揚げで平年同期(25.9トン)の3.7%であった。沼津港では、マイワシが22.4トンの水揚げで平年同期(96.5トン)の23%であった。静浦港では、マイワシの水揚げはなく(平年同期もなし)、カタクチイワシの水揚げもなかった(平年同期もなし)。伊東港ではマイワシが38kgの水揚げで、平年同期(71.3トン)の0.05%であった。

注) 平年同期: 過去5か年(2007~2011年)平均

[調査船の動向]

日 付	調査内容	日 間
1月6日 ~ 1月7日	サクラエビ IKMT 調査	(2日間)
1月10日	地先定線観測調査	(1日間)
1月12日 ~ 1月13日	地先定線観測調査	(2日間)
1月16日	シラス調査(ニューストーンネット)	(1日間)
1月18日 ~ 1月19日	シラス調査(TBC ネット・刺網)	(2日間)
1月23日 ~ 1月25日	タチウオ調査	(3日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

